

科目名	労働法Ⅱ				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	法学部	配当年次	2年次
教員名	岩永 昌晃			単位数	2単位

授業概要／Course outline

皆さんの中には、アルバイトとして働いた経験がある人もいることでしょう。また、大学を卒業すると、多くの人が、会社等で働くことでしょう。働いた際に、給与の額が、最初に約束していた額よりも少ないという場合、そして、そのことに苦情をいったら「明日から会社に来なくてもいい」といわれてしまった場合、皆さんは、どうしますか。また、経営状態が悪化したことを理由に、給料を引き下げられてしまった場合には、どうしますか。このような働く上で生じる様々な問題を解決するための法的ルールを定めるのが、労働法です。働く人にとって、労働法を学ぶということは、働く上で知っておくべきルールを学ぶことといえます。

また、労働法は、企業運営の要となる人事・労務に関わる法でもあります。その意味では、労働法を学ぶことは、働く人のみならず、これから人を雇って事業を始める人や経営者になる人にとっても重要といえます。

この講義では、労働法のうち、労働基準法と労働組合法を中心に解説します。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 労働法の考え方・体系

授業スケジュールを確認し、この授業での到達目標や身につく力について説明をする。

労働法の考え方、全体像、学ぶ意義について解説する。

第2回 労働時間（1）

労働時間法制の全体像、労働時間規制の基本枠組み（原則、例外、適用除外）について解説する。

第3回 労働時間（2）

労働時間規制の特則（変形労働時間制、フレックスタイム制、事業場外労働、裁量労働制）について解説する。

第4回 休暇・休業（1）

年次有給休暇を中心に休暇、休業に関する法制度について解説する。

第5回 休暇・休業（2）

前回に続き、年次有給休暇を中心に休暇、休業に関する法制度について解説する。

第6回 賃金

労基法上の賃金に関する規制について解説する。

第7回 労働者の人権保障・雇用差別の禁止

労基法における労働者の人権保障に関わる規定のうち、賠償予定の禁止と均等待遇原則について解説する。

男女同一賃金原則および男女雇用機会均等法について解説する。

第8回 労災補償

労基法上の災害補償と労災保険制度について解説する。

第9回 労働組合

集団的労使関係法の体系、全体像および労働組合の意義について解説する。

第10回 団体交渉

団体交渉の意義、当事者・担当者、交渉事項、交渉の態様、団交拒否に対する法的救済について解説する。

第11回 団体行動（1）

争議行為の意義、正当性、使用者の争議行為等について解説する。

第12回 団体行動 (2)

組合活動とその正当性について解説する。

第13回 労働協約

労働協約の意義、規範的効力、一般的拘束力等について解説する。

第14回 不当労働行為

不当労働行為制度とその法的論点について解説する。

★オンデマンド 定期試験の振り返り

定期試験終了後、その解説を行う (90分)

事前・事後学修/Preparation and assignments

第1回 労働法の考え方、体系

[事前学習] 教科書1の該当箇所(3~12頁)を読む。

[事後学習] 教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第2回 労働時間 (1)

[事前学習] 教科書1の該当箇所(133~156頁)を読む。

[事後学習] 教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第3回 労働時間 (2)

[事前学習] 教科書1の該当箇所(133~156頁)を読む。

[事後学習] 教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第4回 休暇・休業 (1)

[事前学習] 教科書1の該当箇所(156~171頁)を読む。

[事後学習] 教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第5回 休暇・休業 (2)

[事前学習] 教科書1の該当箇所(156~171頁)を読む。

[事後学習] 教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第6回 賃金

[事前学習] 教科書1の該当箇所(125~131頁)を読む。

[事後学習] 教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第7回 労働者の人権保障・雇用差別の禁止

[事前学習] 教科書1の該当箇所(202~224頁)を読む。

[事後学習] 教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第8回 労災補償

[事前学習] 教科書1の該当箇所(183~201頁)を読む。

[事後学習] 教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第9回 労働組合

[事前学習] 教科書1の該当箇所(249~267頁)を読む。

[事後学習] 教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第10回 団体交渉

[事前学習] 教科書 1 の該当箇所 (268~273頁) を読む。

[事後学習] 教科書 1 の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第11回 団体行動 (1)

[事前学習] 教科書 1 の該当箇所 (292~310頁) を読む。

[事後学習] 教科書 1 の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第12回 団体行動 (2)

[事前学習] 教科書 1 の該当箇所 (310~313頁) を読む。

[事後学習] 教科書 1 の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第13回 労働協約

[事前学習] 教科書 1 の該当箇所 (274~291頁) を読む。

[事後学習] 教科書 1 の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第14回 不当労働行為

[事前学習] 教科書 1 の該当箇所 (314~339頁) を読む。

[事後学習] 教科書 1 の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

★オンデマンド 定期試験の振り返り

[事前学習] 第1回から14回までの内容を復習する。

[事後学習] 授業全体のまとめを行い、試験についての振り返りを行うこと。

※各授業に対する事前・事後学修は約180分を目安とし、合計で2,700分程度とする。上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うこと。

授業の到達目標/Expected outcome

- ・労働基準法や労働組合法に関わる基本事項(定義、要件・効果、制度趣旨)を説明できるようになること。
- ・典型的な事例や著名な判例の事例の法的解決を説明できるようになること。

身につく資質・能力/Competencies to be attained

- ・主体性
専門知識・専門技能
【法学部 法律学科】
 - ・法律学・政治学の基礎知識【法学部 法政策学科】
 - ・法律学・政治学・政策学の基礎知識

履修上の注意/Special notes, cautions

- ・他学部生の履修は、人事労務プログラム登録者に限る。

評価方法/Evaluation

- ・授業回ごと(第1回~14回)に実施する小テスト(20%)
小テストは、所定の期間内しか受験できない。各回の小テストは、10点が満点である。最終評価においては、小テスト14回の合計点(140点満点)を、20点満点に換算する。
- ・定期試験(80%)

教材/Text and materials

- ・教科書: 1 有田謙司ほか編『ニューレクチャー労働法(第3版)』(成文堂、2020)
2 村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選(第10版)』(有斐閣、2022)

質問や相談の方法/Instructor contact

- ・オフィスアワー: 金曜日昼休み(12:15~13:15)